



れています。

「存命の理」の掛け軸が掲げら
天理教の教会には、中山善衞・三代真柱様

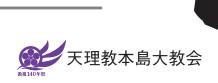
「存命の理」とは教祖のことです。教祖は現身を隠されて直接お姿を拝することはではら(おぢば)にお住まいになり、世界たすいら(おぢば)にお住まいになり、世界たすいの先頭に立って私たちをお導きくださっています。

で、姿が無いばかりやで。」(明治23年3月17日)で、姿が無いばかりやで。」(明治23年3月17日)の道を見て思やんしてくれねばならん。日の道を見て思やんしてくれねばならん。日の道を見て思やんしてくれねばならん。日の道を見て思やんしてくれねばならん。日の道を見て思やんしています。

信念を固めることができました。
ながらお道を歩ませていただき、存命の理のながらお道を歩ませていたださ、存命の理のながらお道を歩ませていただいたところ、ながらお道を歩ませていただいたところ、ながらお道を歩ませていただいたところ、ながらお道を歩ませていただいたところ、ながらお道を歩きせていたができました。

一存命の教祖は原典を通して、私たちに親

条の道に務めさせていただきましょう。存命の理こそ、この道の生命と申せましょう。私たちは存命の理におすがりし、たすけ一はよいなのです」しく語りかけてくださっているのです」



本島大教会布教部(晴